

熊野古道



熊野古道からのてがみ
 38 通目

中学校一年二月の「やつぎやま行軍」は忘れられない。昭和二十年（一九四五）二月太平洋戦争末期、三、四、五年の上級生は学徒動員で鳥羽と松阪の軍需工場へいつていた。当時は「教練」という授業があり、「軍人勅諭」と講義による軍人精神の注入、それを基礎にした実地訓練があった。不動の姿勢、号令のかけ方、歩き方、敬礼の仕方、鉄砲の持ち方おろし方、構え方打ち方、匍匐前進訓練、長距離走、山登り走などである。教官は現役バリバリの陸軍将校であった。必死で取り組み、トップになることが多かった。

教練の総合実習としての八鬼山への行軍である。前日に、背のう（軍人用ランドセル）には一貫目（3・75kg）の砂を入れてくるよう指示があった。当日八時出発。頂上まで登るには初めて、「七曲り」などえらいことは聞いていたが、どんな所かと期待もあった。前年の津波で橋が落ちてしまった矢の川の堰を飛び越えながら渡り、登り口に入った。しばらく「駆け足！」の号令がかかった。班長は復唱大声で後に号令する。隊列は乱れる。こんなことは途中何回かあって、息切れ足つりする者が続出した。そうこうするうちに、「七曲り」だと前の方から声がかかった。

上を見て驚いた。なんとすごい岩山だ。覆いかぶつてくるように突き出した巨岩、その下には崩れ落ちた大きな岩が広がっている。それらを左に

筆リレー
 次は尾鷲市の山本ななさん

野田 敦美さん
 (尾鷲市) 熊野古道語り部友の会会員
 尾鷲古文書の会

荒神堂まで登って下りて来た。背のうの一貫目の砂の重さは余り気にならなかった。何より腹が減ったのには参った。矢の川まで来たとき、一年生の先輩の中に砂を川に捨てている人がいたので、一年生も同じようにした。帰校して整列解散と思いきや、教官の点検が始まった。「しまった」と思ったが、もう遅い。列外に出され、二十人ばかりで一周200mのトラックを十周走らされた。これはえらかった。

この年八月十五日に敗戦の詔勅があった。ふと「八鬼山の七曲り」を思った。



見ながら息を切らせて曲り曲り登って、上から見た高さに目がくらんだ。「落ちたらいっぺんにいくなあ。」と思った。

花尻 薫からの季節のたより No.38

ハマダイコンは昔、栽培の大根が野生したものと言われています。古い時代(約1300年前)に書かれた有名な「古事記」には、大根をオオネと記載してあります。オオネ(大根)は、早くから日本に渡来した重要な野菜であったと古事記に記載してあります。植物の研究で有名な「牧野富太郎」博士は、ハマダイコンに肥料をやって栽培すると、ふたたび普通のダイコンになるが、全体がやせて、粗い毛が多く、根は長く太くなってやわらかくなると、書物に書いてあります。

ハマダイコンの花は4月から5月に咲き、淡い紅紫色の花をつけます。種は普通の大根よりも数珠状にくびれて、

ハマダイコン アブラナ科

先は細とがり、熟しても裂けません。普通の大根は種が熟すると、自然に裂けて地面へ広がります。

ハマダイコンは海岸の砂地に多く、東紀州地域では紀北町の豊浦神社の海岸や、七里御浜の海岸に群落を形成して咲きます。



ハマダイコン

センター敷地内『夢古道おわせ』へぜひお立ち寄りください!

お母ちゃんのランチバイキング
 尾鷲・東紀州の食材をふんだんに使った、地元のお母さんの味です。

営業時間: 11:00~14:00
 料 金: 中学生以上1,200円
 小学生以上700円
 4歳~小学生300円
 4歳未満無料
 60歳以上1,000円

みえ尾鷲海洋深層水「夢古道の湯」
 深海415メートルから取水された海洋深層水のお風呂。ミネラル分が豊富で保温性に優れているので、湯上り後もポカポカです。

開館時間: 10:00~21:00
 入浴料: 一般600円
 65歳以上500円
 4歳~小学生300円
 4歳未満無料

お風呂がりは、カフェでゆったり♪
 営業時間: 9:00~17:00
 (カフェラストオーダー 16:30)

毎月26日は風呂の日 お子様は通常300円が100円でご入浴できます。

熊野古道センターニューズレター
 熊野古道センターからのてがみ
 ● 2016年 春号 ●

●発行日: 2016年3月15日(季刊)
 ●編集・発行: 三重県立熊野古道センター
 (三重県指定管理者 NPO法人熊野古道自然・歴史・文化ネットワーク)
 ●編集担当: 東
 ●連絡先: 〒519-3625 三重県尾鷲市向井12-4
 TEL 0597-25-2666
 FAX 0597-25-2667
 Mail info@kumanokodocenter.com
 HP http://www.kumanokodocenter.com/
 ●開館時間: 午前9時~午後5時
 ●入場料: 無料
 ●休館日: 12月31日、1月1日(その他メンテナンス時休館)

●お車でお越しの方は...
 尾鷲北IC→坂場交差点を直進→「ホテルピオラ」さんがある交差点を右折→しばらく県道を海沿いに走り、案内看板を右折して到着です。(尾鷲北ICから約10分)

●電車でお越しの方は...
 JR尾鷲駅下車→ふれあいバス「尾鷲駅」バス停(徒歩1分)、または三重交通「尾鷲駅」バス停(徒歩5分)乗車→「熊野古道センター前」下車
 ●松阪駅
 →南紀特急バス「熊野古道センター」行 終点下車(約2時間)

熊野古道 伊勢路 通行止めのお知らせ
 熊野古道伊勢路の以下の2つの峠道が通行止めとなっております。
 「サボ鼻道」(紀北町紀伊長島区古里地区)
 「横垣峠」(南牟婁郡御浜町阪本地区~神木地区)
 ※平成28年3月15日現在
 6000160315MH

「伊勢へ七度、熊野へ三度」、信仰の対象となった2つの聖地。江戸時代、お蔭参りなどで活気をみせた通称「お伊勢さん」と呼ばれる「神宮」。全国津々浦々から多くの参拝者が訪れ、内宮外宮とも賑わいをみせた。伊勢参宮を終えた旅人はというと、その多くは伊勢本街道や和歌山街道を通り、吉野や高野山、さらに上方や京都見物をし、故郷に帰った。お伊勢参りをすませた後、各地の観光地を回り周遊して帰郷するのが主な旅のスタイルであった。一方、その他の旅人はどうしたのか、どこへ向かったのか。その答えは、他にもないもう一つの聖地熊野を目指したのだ。

なぜ熊野を目指したのか、熊野には何があるのか。それは西国三十三所観音巡礼への旅立ちであった。

伊勢路紀行

西国巡礼への旅立ち



西国三十三所名所図会 田丸城下

目指すは和歌山県那智山にある西国三十三所観音巡礼の第一番札所「青岸渡寺」だ。第一番札所を目指す旅人は紀伊半島周縁部の東と西を繋ぐ熊野街道を通り南下した。それはいくつもの峠越えが連続する険しく厳しい道であった。

その熊野街道の起点にあたる町が田丸である。現在の度会郡玉城町田丸で、かつては伊勢本街道と熊野街道が交わる宿場町として大変な賑わいをみせた。また、田丸には北畠氏が築いた田丸城跡があり、徳川幕府がひらかれてからは紀州藩所領の城となり、明治維新まで続いたという。その後、城郭は取り壊されてなくなり、中学校が建てられている。しかし、城を取り巻く石垣や堀などは残されており、往時の面影が感じられる。

西国巡礼へ旅立つ旅人は、この田丸で巡礼の装束などを整えたとされる。白衣や菅笠、そして笈摺(おいずる)という袖のないひとえの衣装をそろえた。この笈摺には住所・名前・年号を書き、さらに「奉納西国三十三所」と記載し、観音巡礼をおこなう意志表示をし、那智へ向かった。

厳しい峠越えの連続する熊野街道。本来は地域と地域を結ぶ「生活道」であったのが、整備され信仰の道として歴史を刻んできた。道、道をとりにまく景観、そして人の営みによって価値が高められてきた景観。今は「熊野古道」という名称のもと、道の世界遺産として、多くの人々が利用する地域の大切な財産になっている。



平成27年度 第9回 **熊野古道フォトコンテスト結果発表!!**

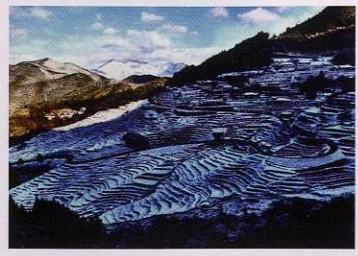


最優秀賞 南 育孝さん(熊野市)
「獅子岩に花咲く」
(撮影場所:熊野市七里御浜海岸)

9年目となった熊野古道フォトコンテスト。
今年も多くの方にご応募いただき、ありがとうございました。



優秀賞 熊野古道センター賞
堤 達彦さん(四日市市)
「古より」(撮影場所:紀北町馬越峠)



優秀賞 東紀州地域振興公社賞
土山 倫子さん(新宮市)
「雪の千枚田」(撮影場所:紀和町丸山千枚田)

他、
入選7名
※詳しくは
熊野古道センター
HPでご確認
いただけます。

写真を通じて熊野古道とその周辺にある自然や祭り、風物詩など、東紀州地域の様々な魅力を再発見できる写真を広く募集し、日本風景写真の第一人者、竹内敏信氏の審査により、入賞作品が決定しました!

熊野古道センター
来館者
100万人
達成!!

平成27年12月5日、平成19年2月10日の開館以来、約8年10か月にて来館者100万人を達成することができました。栄えある100万人目の来館者となったのは、兵庫県明石市在住の林さんです。林さんは熊野古道が大好きで、古道歩きの情報収集のために当センターをご利用いただいているそうです。来館者100万人を達成できたのは、開館以来多くの皆様に支えていただいたお陰と感謝しています。当センターでは、今後も地域の皆様と共に、東紀州の様々な魅力を発信し、世界遺産熊野古道伊勢路の発展に寄与していきたいと思っています。



2月1日から展示棟常設展示の多言語音声案内システムを導入し、機器の貸出を無料でを行っています。常設展示の説明を、英語、中国語、台湾語、韓国語、フランス語で聞くことができます。A4版案内シート上の該当展示位置や表示付近の音声マークを「音えんびつ」ペン先でタッチすれば、それぞれの音声で適切なナレーションが流れる仕組みです。海外からのお客さまの満足度や熊野古道伊勢路への理解が高まればと期待しています。

伊勢志摩サミット2016
2016年主要国首脳会議(サミット)が三重県の伊勢志摩地域で開催されます。
5月26日・27日
伊勢志摩サミット三重県民会議

和歌山県
世界遺産センター
からのお知らせ

当センターが行う参詣道保全活動「道普請」は、毎年、多くの方に参加していただいています。1月21日には、インド・マハラシュトラ州観光開発公社(MTDC)の職員11名が「JICAおもてなし研修事業」の一環として、道普請をされました。地元本宮にお住まいの方々と共に作業をし、MTDC職員からは「地域と共に取り組む世界遺産の保全について、大変理解することができた」と好評でした。当センターでは、「紀伊山地の霊場と参詣道」の良好な保全及び適切な活用が円滑に進むよう、世界遺産セミナー(年4回)を開催しています。来年度は下記の日程で開催予定となりますので、世界遺産に興味・関心のある方のご参加をお待ちしております(参加費は無料です)。
※参詣道保全活動及び世界遺産セミナーに関するお問い合わせは、和歌山県世界遺産センター(0735-42-1044)までお願いします。



「道普請」とは
文化財保護専門職員による指導のもと、参詣道の保全活動(土入れ・側溝清掃等)を行っていただくものです。ボランティア活動・CSR活動として、毎年、多くのお客さまに参加していただいています。

平成28年度 世界遺産セミナー(予定)				参加費 無料	※諸般の事情により、日程・内容・場所等が変更になる場合がありますので、和歌山県世界遺産センターへご確認ください。
6/5(日) 13:00-15:00	7/31(日) 13:00-15:00	9/4(日) 13:00-15:00	12/11(日) 13:00-15:00		平成27年11月~平成28年1月の道普請参加団体(敬称略)
内容: 阿弥陀寺と熊野参詣道について	内容: 紀伊山地の霊場への参詣道について	内容: 高野参詣道とそのルートについて	内容: 高野参詣道三谷坂について		伊藤園、関西東急、和歌山県警本部(青少年サポート)、立花エレクトック、NTTビジネスアシスト西日本、49-3即自有志、NTT西日本和歌山支店、ホテルフォーレ南紀白浜、串本古産高等学校古産教室、田辺市立本宮中学校、MTDC
場所: 那智勝浦町体育文化会館 研修室	場所: 世界遺産 熊野本宮館 多目的ホール	場所: 高野町中央公民館	場所: かつらぎ総合文化会館 「あじさいホール」		

参詣道保全活動(道普請)及び世界遺産セミナーに関するお問い合わせは **和歌山県世界遺産センター TEL.0735-42-1044** までお願いします。住所:和歌山県田辺市本宮町本宮100-1 FAX:0735-42-1560 E-mail:e0624002@pref.wakayama.lg.jp

旬の企画展 **Event Info.**

企画展 1 「熊野古道写真学校作品展」
平成27年11月21日~23日に開催した「第9回熊野古道写真学校~熊野と出会う~」の参加者の写真作品を展示します。参加者が独自の視点で写し出した熊野の風景をお楽しみください。
会期:~4月17日(日) 午前9時~午後5時 *会期中無休
入場料:無料 場所:企画展示室

企画展 2 「シリーズ熊野古道 中辺路~熊野三山を結ぶ信仰の道」
貴賤男女を問わずすべての人を受け入れた聖地熊野。中世以降、西国各地から熊野三山に至る参詣道として利用されたルートのひとつ熊野古道中辺路の魅力を紹介いたします。
会期:4月29日(金・祝)~6月26日(日) 午前9時~午後5時 *会期中無休
入場料:無料 場所:展示棟企画展示室

特別展 「熊野・農具と暮らし」
明治から昭和にかけて熊野地方で使われていた農具を展示します。今は姿を消した道具から、昔の暮らしを振り返ります。
会期:4月16日(土)~6月5日(日) 午前10時~午後5時
入場料:無料 場所:特別展示室

付属事業 ① 「中辺路を歩く~小雲取越~熊野三千六百峰を見る~」
熊野那智大社と熊野本宮大社を結ぶ雲取越ルートの後半部、小雲取越を歩きます。
日時:5月21日(土) 午前7時~午後5時
参加料:1,000円 *別途、バス運賃必要
定員:20名(要申込・応募多数の場合抽選)
場所:熊野古道中辺路(新宮市熊野川町~田辺市本宮町)
案内人:西浦康代さん(新宮市観光ガイドの会)
対象:どなたでも *参詣道向けコース(歩行距離約13km)
受付:4月21日(木)~5月14日(土)

付属事業 ② 「熊野・農具と暮らし」
展示資料の解説と牛や人力が中心だった頃の農家の暮らしについてお話しします。
日時:4月16日(土) 午前10時30分~11時30分
入場料:無料 場所:特別展示室
定員:20名(事前申込不要) 講師:岩本萬壽生さん(小阪百年会会長)

付属事業 ② 講演会「川の参詣道・熊野川」
川の熊野古道として世界遺産に登録されている熊野本宮大社と熊野速玉大社の間の熊野川。この川の参詣道の歴史・名所についてお話しさせていただきます。
日時:5月29日(日) 午後1時30分~3時
入場料:無料 場所:映像ホール
定員:80名(要申込・先着順) 講師:山本殖生さん(熊野三山協議会幹事)
受付:4月29日(金・祝)~5月28日(土)

交流イベント

「熊野古道油彩画教室」(年間4回)
熊野古道やその周辺の風景を油彩で描く講座です。画材の取り扱い方など基礎的なことから専門的な技術まで幅広く学んでいただけます。これから油彩を始める方も大歓迎。作品作りを通して熊野の美しい自然や風景を再発見してみませんか。
時間:午前10時~午後3時
参加料:2,000円/年間(保険代含む)*材料費別
(油絵具等道具については、参加者案内送付時に詳細をお知らせいたします。)
定員:15名(要申込・応募多数の場合抽選)
対象:中学生以上
場所:体験学習室 および熊野古道とその周辺
講師:伊藤清和さん(独立美術協会会員、アトリエトウ主宰)
講師アシスタント:大西佐奈さん(三重県 文化専門振興員)

体験学習

4/16(土) 県民の日「尾鷲ヒノキを組む・削る」
尾鷲ヒノキを使用し、組み木のコースターやカトラリーを作ります。
時間:午後1時~3時受付
参加料:100円
定員:30名程度(事前申込不要)
場所:展示棟ロビー
講師:熊野古道センター職員

5/7(土) 自然学校「熊野の野鳥を学ぶ~青い鳥(オオルリ)を探そう」
夏鳥として日本に飛来するオオルリを中心に、春の野鳥を観察します。
時間:午前9時~11時30分
参加料:500円(保険代含む)
定員:20名(要申込・応募多数の場合抽選)
場所:旧矢ノ川峠道(尾鷲市街)
講師:中井節二さん(日本野鳥の会三重所属)
受付:4月7日(木)~4月30日(土)

5/14(土) 自然学校「アゲハチョウの標本作りを学ぼう!」
ナミアゲハやカラスアゲハなどの大型チョウの標本作りを学びます。
時間:午前9時~11時30分
参加料:500円(保険代含む)
定員:20名(要申込・応募多数の場合抽選)
場所:熊野古道センター周辺
講師:山口和洋さん(三重県昆虫学会、熊野の自然を考える会会員)
対象:どなたでも
受付:4月14日(木)~5月7日(土)

講座・講演

4/23(土) 連続講座「古文書からひも解く地域の暮らし」(年間12回)
古文書の基礎的な知識を習得するための講座です。東紀州地域に残る古文書を中心に、地域の歴史や昔の暮らしに触れながら、1年間楽しく学びましょう。
開催日:毎月第2または第4土曜日
時間:午後1時~3時
参加料:1,000円/年間(資料代含む)
定員:20名(要申込・応募多数の場合抽選)
場所:図書資料室
講師:尾鷲古文書の会会員
受付:3月23日(水)~4月16日(土)

新しい古道の歩き方

4/23(土) 「熊野脇道と海跡湖眺望トレッキング」
玉城町田丸から熊野街道とは別ルートで熊野へ至る熊野脇道。その熊野脇道と海跡湖を眺めるトレッキングを開催します。
時間:午前9時~午後3時
参加料:500円(保険代含む)
定員:20名(要申込・応募多数の場合抽選)
場所:南伊勢町新桑籠
講師:仲倫之さん(南勢てくてく会会友)
対象:どなたでも *健康者向けコース(歩行距離約10km)
受付:3月23日(水)~4月16日(土)

6/18(土) 「北山道と丸山千枚田巡り」

本宮道の「風伝峠」から分岐し、吉野方面へ北上する北山道を歩きます。苔むした美しい石畳が続く「通り峠」を越え、日本の原風景が残る「丸山千枚田」を巡ります。
時間:午前10時~午後3時
参加料:500円(保険代含む)
定員:20名(要申込・応募多数の場合抽選)
場所:熊野市紀和町
受付:5月18日(水)~6月11日(土)

日曜わくわくものづくり体験教室

日曜の午後は、東紀州を中心に活躍する講師が、週替わりでいろいろな体験教室を開催します。簡単に作れるものや本格的な工作など、小さなお子様から大人まで楽しめる人気の教室です。
時間:午後1時~3時受付
参加料:体験内容による
場所:交流棟ロビー

体験内容: 籠織りづくり、切り絵・型紙体験、ひのきのおもちゃ、杉の貯金箱、紙飛行機づくり他

詳しくは熊野古道センターHPでご確認ください。